

議事録

会議の名称	令和4年度第7回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	令和4年9月6日（火曜日）午後6時30分から午後9時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦会長、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、佐々木亮翔委員、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、中嶋亮太委員（50音順） ※欠席：松川紀代美委員 事務局：保谷企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、樽見企画部主幹、鹿森企画政策課課長補佐、里企画政策課主査、小倉企画政策課主査、鎌田企画政策課主事
議題	議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 (1) 人口推計について（報告） (2) 市民参加について（報告） (3) 基本構想について 議題3 その他
会議資料の名称	資料1 令和4年度人口推計結果の概要について 資料2 西東京市のミライを語るシンポジウム<実施報告書> 資料3 子どもワークショップ西東京市のミライを考えよう！<実施報告書> 資料4 西東京市のミライを考える「まちづくりワークショップ」実施概要 資料5 西東京市第3次総合計画策定に向けた企業・団体等ヒアリング結果まとめ 資料6 第3次総合計画基本構想・基本計画（素案）策定の流れ 資料7 第3次基本構想の構成案 資料8 市民参加で得られた基本構想に関する意見一覧
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
議題1 開会 会長より開会の挨拶	
議題2 諮問事項に対する協議検討 (1) 人口推計について（報告）	

事務局から資料1について説明

○委員

西東京市の高齢化率は、東京都や周辺の市と比べて高いのか、低いのか。

○事務局

当市の高齢化率については、国の推計である「国立社会保障・人口問題研究所」の推計結果と比較すると、周辺市と同様の傾向を示している。

(2) 市民参加について (報告)

事務局から資料2について説明

○委員

シンポジウムアンケートの問5「まちづくりで重要な分野」の選択肢の『まちづくり』とは何か。

○事務局

道路などのインフラ・都市基盤整備を示している。

○委員

行政の施策としての包含的な「まちづくり」と都市基盤整備としての「まちづくり」の区別について、この報告書に限らず、使い分けができていない事例が多くみられる。「まちづくり」と一括りに表現してしまうと非常にわかりにくいので、使い分けをしっかりと行ってほしい。

○委員

行政と市民の間で、「まちづくり」という言葉の捉え方に乖離が生じてしまう可能性があるため、両者の認識に齟齬がないようにしていかなければならない。

○事務局

シンポジウム後に実施した市民ワークショップのアンケートでは、より具体的な表記に変更を行った。

○委員

シンポジウムアンケートの自由意見のうち、「イベントに参加した人がその先につながるためのしかけが必要」という点に共感した。今回のシンポジウムに参加し、コーディネ

ーター的な役割の方の重要性を感じた。一般の市民の方だけでまちづくりというのは難しいため、コーディネーターを育てることが必要ではないか。

○会長

シンポジウム登壇者をはじめ、西東京市にはいろんなタレントを持つ人材がいる。彼らの活動をもっと知ってもらい、コーディネーターを増やしていけると良い。

○委員

パネルディスカッションのファシリテーターとして、登壇者と丁寧に話し合いを重ね、準備を進めることができた。コーディネーターの重要性は増すと思う。市内でおもしろい活動を行っている人、行いたい人は多くいる。その人達が元気に動けるまちにしていけると良い。

○委員

パネリストの方々には様々な分野で活躍されている。彼らから得た具体的な策について、どうしたら具体化できるか考えるべきである。

○会長

市民の意見を総合計画にどう集約していくかが大事である。シンポジウムのパネリストや市民から出た具体的なアイデアは、庁内の関係部署にも情報提供してほしい。

○委員

パネルディスカッションで、能動的に市のために活動している人達がこんなにいることを初めて知った。課題として、「若い人が活躍できる場がない」と言われていたが、実は活躍できる場はたくさんあって、それを若い人達が知らないだけなのではないか。数ではなく、「場」に関する情報発信の仕方が課題ではないかと感じた。

また、アーカイブ配信のアンケートの自由意見で、ノイジーマイノリティについて触れている意見がある。シンポジウムに参加するような人は、もともと市政に関心があり、市政に対する自分の意見を持っている。サイレントマジョリティの声を聞くシステムの必要性を強く感じた。

○委員

シンポジウムのアンケートについて「子どもが子ども時代に『楽しかった』と思うこと」という意見がある。コロナ禍の今の子どもの体験は自分達とは異なるため、視点を変えることが大事だと思った。西東京市内での楽しい体験が増えれば、西東京市を好きになって転出者も減るのではないか。

事務局から資料3～資料5について説明

○会長

子どもワークショップは、コロナと熱中症のリスクが大きい中で開催されたが、子どもはのびのびと活動していた。市民ワークショップも、市民が非常に熱心に参加していた。ワークショップで出たキーワードは総合計画の下地になる。具体的なアイデアや課題は庁内にも共有してほしい。

○委員

子どもワークショップの参加者は定員20名に対して実際は10名だったが、これは情報発信が不十分だったからではないのか。参加者はどのような理由で参加したのか。

○事務局

市報、市ホームページ、市の公式SNSに加えて、市内の小中学校に全生徒分のチラシの配布を行った。参加理由については、学校からの推薦による参加が多かった。

○委員

当日、参加者に直接聞いたところでは、「親から勧められて参加した。」という子どももいた。

○会長

ワークショップ後に、子どもが家庭や周りの大人たちへインタビューするなどのプログラムはあったのか。

○事務局

家庭へのフィードバックとして、1回目と2回目の間に、「西東京市のいいところ」を探してくるという宿題を出した。参加した児童の親から、「普段学校の話あまりしない子どもが、家でワークショップの内容をたくさん話してくれた。宿題にも熱心に取り組んでいた。」という連絡をいただいた。

○委員

子どもワークショップは非常に良いアプローチで、いろいろな議論が蓄積されて、新しい可能性が生まれているように感じた。今後、この成果がどこに反映されたのかがわかりにくくならないように工夫していく必要がある。

市長は「子どもがど真ん中」を掲げているので、今回の市民参加の成果を第3次総合計画の策定に活かすだけでなく、第4次総合計画にも活かすことができるようしてはどう

か。今回「子ども」として策定に関わった世代が、第4次総合計画の策定や評価にも関わられると良い。

ただの意見聴取だけではないものとして、一步踏み込んだ活用ができると良い。

○委員

ワークショップで市民が出したたくさんの意見を、計画にどう反映するかが課題である。庁内各課でワークショップの内容を共有し、具体的に議論して反映させていく必要がある。

○会長

今の総合計画策定過程における市民参加の取組が、西東京市の1つの仕組み作りになっている。各事業を行う上で市民意見を聞くことを西東京市の特徴としてほしい。市民のために活躍している市民に光を当てるとともに、課題を抱えている人にフォーカスできると良い。総合計画の中では細かい事業に言及することは難しいため、そこは各事業計画や都市計画マスタープランでカバーすることが必要となる。

○委員

市民の意見、要望、意思を行政に反映させる仕組みは必要であるが、本審議会の役割は、総合計画が市民の意見を反映して策定されていることを担保することである。

○委員

多くの市民を巻き込みながら計画を作るプロセスをどうデザインするかということは、総合計画策定後の施策展開で市民と行政がどう協働するかということにも繋がる。ワークショップは内容が充実しており、参加者は、「自分の意見を計画に埋め込んだ」というタイムカプセルを埋めたような気持ちになるのではないかな。

意見出しだけで終わらない関係作りを行い、自分事として関わる市民を増やし、計画期間終了後にみんなで振り返ることができて、自分事として捉えられようになると良い。

○委員

若者には、市政だけでなく政治全般に対して意見を言っても反映されないという空気感がある。意見が反映されている事実はあるけれども、目に見える形がない。

行政の施策にタイムラグが生まれるのは仕方ないが、意見を出した当人が覚えているうちに形にできると良いのではないかな。

(3) 基本構想について

事務局から資料6～8について説明

○会長

基本構想策定の検討にあたり、これまでの議論も踏まえ、大きく2つの点について、共通の認識を持って進めていきたいと思う。

まず、基本構想の基本理念と将来像についてだが、「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」という基本理念は、第1次、第2次の総合計画で20年間変えずに引き継いできている。また、4つの理想のまちの将来像についても、第1次総合計画を踏襲する形での内容となっているが、ここ3年間だけをみても社会情勢が大きく変わってきている中で、これまでの基本理念や将来像にとらわれずに、これから10年間のまちづくりを見据え、一から考えていくこととしたいがどうか。

また、計画の構成についても、第2次総合計画をベースにしつつ、これまでの審議会の議論でも意見が挙がっている「市民にとってわかりやすい計画」という視点を持ちながら、考えていくこととしたいがどうか。

○委員

他部署が実施した市民参加のイベント等の結果なども参考にできるのではないかな。

○会長

常に情報を共有して連携することが必要なので、ヒントになりそうな情報のフィードバックをお願いしたい。

○委員

資料5の西東京市の弱みとして「西東京市を一言で表すキャッチコピーがない」とあるが、これに尽きる。「西東京市ってどんなまち？」と聞かれた時、答えに困ることがある。こういう時にパッと答えられることが総合計画のゴールではないか。現行計画は「理想のまち」と理念がわかれているが、なかなか具体的なまちが想像しづらい。最初に目につく基本理念はわかりやすいフレーズにするべきではないか。

○委員

基本理念の下にある事業や個別計画との整合性を取るため、基本理念はどうしても抽象的になってしまう。第2次総合計画の基本構想と第3次総合計画の基本方針の内容のどこが同じでどこが違うのかを精査することで、第2次総合計画とは異なる第3次総合計画における重要なポイントが見えてくるのではないかな。総合計画は重い船のようなものであるため、急な進路変更はできない。市民意見だけではなく、現状の課題整理もしっかりと行い、時間をかけて進路変更する必要がある。

○会長

お二人の意見は大事な視点である。予算の分配なども関係してくるため、基本理念はどうしても包含的・抽象的なものになる。また、西東京市のブランドを審議会が勝手に決めることも違うと思う。基本理念や将来像はシンプルで良いが、まちづくりの方向については、ある程度細かく挙げることも必要である。

○委員

まちづくりに時間がかかるのは仕方ないが、10年後を予測するのは難しい。市民がまちづくりを自分事として考えられるよう、策定のプロセスを大事にしたい。また、文字ばかりではわかりにくいので、総合計画を絵などで視覚的に説明できれば子どもにとってもわかりやすいだろう。

○委員

市民ワークショップで出た「余白（のびしろ）があるまち」は、今の西東京市をよく表している。良いイメージではないかもしれないが、みんなと一緒に作っていこうという気持ちになれるのではないか。

○委員

「ちょうどいい都下の魅力を揃えました」が良い。実は西東京市は都下の魅力の平均値が高い。

○委員

中学生アンケートで出た「やさしいまち」が良い。

○会長

他に意見があれば、本日から1週間以内に事務局にメールで提出してもらいたい。

議題3 その他

○事務局

次回審議会の日程は決まり次第連絡する。

○会長

第7回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)